

【山陰近畿自動車道早期実現促進大会】

12月12日（日）京丹後文化会館で挙行された、標記大会に参加してきました。

大会は、基調講演で、東川直正 国土交通省近畿地方整備局長殿の大いに示唆に富んだお話を聞かせていただくなど、大変有意義な大会となりました。最後に、満場一致で承認した大会決議を、関係各部へ手交し幕を閉じました。



山陰近畿自動車道早期実現促進大会

日時：令和3年12月12日（日）

13:30~15:00（予定）【受付】12:30~

場所：京都府丹後文化会館 ホール

大会次第

1 開会宣言

2 主催者挨拶

3 来賓祝辞

4 来賓紹介

5 祝電披露

6 基調講演

7 意見発表

8 大会決議

9 要望書手交

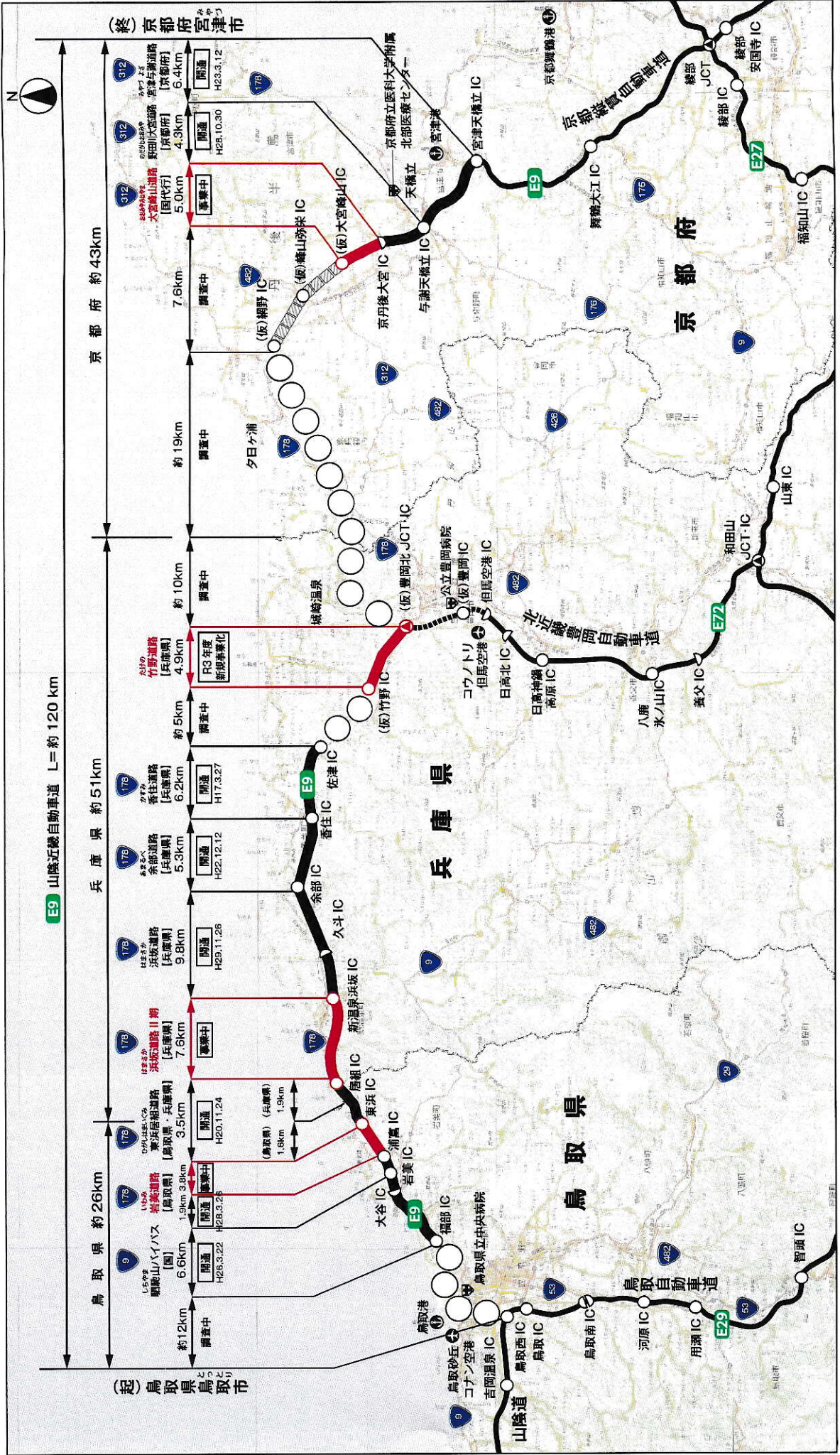
10 閉会挨拶

山陰近畿自動車道の整備状況

令和3年7月現在

整備状況	延長(全長約120km)	鳥取県(約26km)	兵庫県(約51km)	京都府(約43km)
供用区間	44.0km(37%)	10.1km	23.2km	10.7km
事業中区間	21.3km(18%)	3.8km	12.5km	5.0km
未事業化区間(調査中区間)	約54km(45%)	約12km	約15km	約27km

(合計は端数処理の関係で合わないことがあります)



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図20万を複製したものである。(承諾番号 平28情報、第220号)

決議(案)

山陰近畿自動車道は、京都縦貫自動車道、北近畿豊岡自動車道、鳥取自動車道、山陰自動車道と連結し、日本海国土軸を形成する道路であり、地方創生及び国土強靱化の実現に欠かせない重要な幹線道路である。

丹後地域においては、京都縦貫自動車道の全線開通、山陰近畿自動車道の延伸により、観光客の増加や新たな企業進出など高速道路の整備による多大なストック効果が表れている。

こうした効果を更に高め、当地域の経済・産業の活性化のためには、ミッシングリンクである山陰近畿自動車道の早期全線整備が不可欠である。

また、新型コロナウイルスの感染拡大により東京一極集中の是正が求められており、ポストコロナを念頭に交流・関係人口の拡大による地方への人・モノ・仕事の流れを作る地方創生を加速前進させていく必要性が高まっているため、次の事項を強く要望する。

一、山陰近畿自動車道の

- ・大宮峰山道路及びアクセス道路の事業を早期かつ着実に推進するため、必要な予算措置を行うこと
- ・大宮峰山インターチェンジから網野インターチェンジまでを早期に事業決定すること
- ・府県境までの区間について、地元希望ルート帯に配慮し、ルート決定に必要な予算措置を行うとともに、早期にルート決定を行うこと

一、新広域道路交通計画で高規格道路に位置づけられた山陰近畿自動車道を重要物流道路に追加指定すること

- 一、「防災・減災、国土強靱化のための五か年加速化対策」については、更なる拡充を図るとともに、計画的に事業の推進を図るため、当初予算を含めて通常の予算とは別に、必要となる予算を継続的に確保すること

- 一、頻発する大規模自然災害等に対応するための地方整備局等の体制の充実・強化をすること

以上、大会決議とする。

令和三年十二月十二日

山陰近畿自動車道早期実現促進大会